

全国大学反戦ストへ!

2015年11月5日
No.336

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

バリストを打ち抜いた京大同学会委員長 作部君の11・1前段集会でのアピール!

今日、皆さんにこの場で10月27日、京都大学でバリケード・ストライキを打つことが出来た。このことを皆さんにご報告できることを、本当にうれしいという風に思います。この21世紀に日本の大学で初めてのバリケード・ストライキに、至る道は本当に大変なものでした。毎日毎日、いろんなクラスに入って学生と討論をして、「どうやって戦争を止めるのか」「僕らはどうやって、この先生生きていけばいいのか」このことに関して、ずっと真剣に討論してきた。その中で、僕達自身がこの社会に力を持たなくちゃいけない。僕達自身が社会の主人公にならなくちゃいけない。その為にストライキをやるんだ。こういう討論をずっとしてきました。しかし、バリケード・ストライキというのは、実際にやりたい人達の授業まで粉碎する。本当にこれでいいのか。僕らがいろんな討論を経て、毎日毎日悩みながら、でも僕達は今日ここにきてくれているトルコと韓国の労働者が本当に命がけで、戦争を止める為に闘っている人たちと本気で連帯するために、バリケードを築いてストライキしなくちゃいけないと決断しました。

あの戦争法に対して、国会前に何十万、何百万という人たちが集まって安倍の戦争を絶対阻止するんだ。あるいは日本において、動労千葉をはじめとする動労総連合。港合同、関西生コン。こういった人たちが戦争をとめるためにストライキを打つんだ。こうやって闘っていることに対して、僕ら学生がどう答えるんだと考え抜き、私達はバリケードを築いて、ストライキに立ち上がりました。京都大学の中で、山極寿一総長が表向きは「戦争反対だ」と言いながら、実際には大学の中に公安警察を招き入れて、反戦運動を叩き潰そうとしている。

そして全国の大学ではどんどん軍事研究が始まっていて、経済的徴兵制が言われて、私達の日常が戦争に染め上げられていっている。このことに対して私達が、こん



な授業のあり方、こんな大学のあり方、肅々とした学習環境を問題視して、粉碎しなくてはならない。その決意の下で僕らは戦争反対でバリケードを築いてストライキに立ち上がりました。非難ごうごうだろう。どういう反論が出てくるか分からない。そういった思いでやったこのストライキは、本当に感動的な決起が続々と勝ち取られました。僕らがストラ

イキに立ちあがって、全国から学生が集まって、戦争反対でストライキをやってやるんだ。このことを学生に訴えたとき、みんなが僕達のビラを受け取り、僕達の話聞いて悩み始めた。

そしてこのストライキが終わった直後に、いろんな学生と話をしました。そしたら、本当に僕達がバリケードを築いて、ストライキをやっていることに感動して「次は自分の授業でやってくれ」、そういった人達がどんどん出てきている。このストライキをみて今までの戦争についてリアリティーを持っていなかったけども、なにか凄まじいことがおきているんじゃないか。自分でもっと考えて討論したい。そう思う学生がどんどん出てきている。これこそが僕達が大学の中でストライキを一つ打った瞬間に、この大学を塗り替える。大学が解放区になっていく。大学の中で未来を作り出すための討論が、次々に生まれつつある。これこそが僕らがバリケードを築いて、授業を粉碎してストライキをやったことによって生まれた意義だろう。そういう風におもいます。

僕達全学連は、そして同学会中執は、今回のストライキからどんどん広げていって全国の大学でストライキを打ち、次は京都大学で全学を巻き込むストライキを打ちたい。今度はキャンパス全体を封鎖して、僕達が大学のあり方を一から作り上げるような闘いを、皆さんと連帯してやりぬきたい。この僕らの闘いに対して、京都大学当局はすぐさま刑事告訴すると言ってきました。本当に

ナンセンスな話です。しかし彼らは直接手出しできないから権力にお願いするしかない。京大当局は、指一本触れることが出来ませんでした。そして中から学生を入れて内側から破壊させる。学生を動員して学生同士を分断させる。全学連の中にスパイを送りこんで内部崩壊させる。こういったやり方しか彼らは出来ない。しかし、その中で団結を拡大して、スパイ化工作を粉碎して、京大でバリストを打って、世の中から支持されている。ネットですら賛否が半々。こういう状況を作りだしています。今の時代にバリケード・ストライキが甦った。本当にいろんな人たちが心から喜んで、支持して一緒に闘いたいと思っている。だからこそこの新自由主義大学を粉碎するために、戦争をやる安倍政権をぶっ倒すために、ここに集まった全国の労働者・学生・市民のみなさん。そして世界から集まってくださった労働者・学生の皆さんと本気で連帯して、全ての戦争を止めるために、今日これから決断して立ち上がっていきたい。今後ともよろしくをお願いします。

◆首都圏学生の11.1集会感想！

私は集会に参加してみて、今まで知らなかった社会に出会うことができました。不当に扱われ、声も出せない労働者が多くいるという社会があるのだと、また、それは日本だけでなく、海外でも同じような状態があるということを知りました。まだ学生の私にとって、それは驚きでした。そのような状態の中でも、このようにして声を上げて、社会に訴えている人がこれだけいるというのが大きな印象でした。

それぞれの企業で、状況は異なるけれど、みなでリスクを負って戦うという姿を見ました。社会や企業の構成

員である労働者が、社会や企業に対して参画するのにリスクを負わなければいけないというのは不思議なことです。集会にはさまざまな団体が参加をしていて、日本だけでなく、海外の労働者同士が結束していく必要が今の社会にあるのだと感じました。

私は、メディアなどでブラック企業、ブラックバイトなどの情報を耳にするたび、将来の社会に不安を感じています。そしてそれは、私だけではないと思います。集会では、「若者」という言葉が時折使われてましたが、より良い社会の実現のために行動することは、今生きている私たちのためにだけでなく、これからの子どもたちの安心につながる。そのような動きがあることにとてもカづけられました。

銀座をデモ!



【当面する行動方針】

○ “つぶせ！「現代の赤紙」裁判員制度” 11・6最高裁デモ

11月6日(金) 正午～ 日比谷公園霞門集合 主催：裁判員制度はいらない！大運動

○ “今こそ星野文昭さんを取り戻そう” 11・29全国集会

11月29日(日) 13時～ 東京・日比谷野外音楽堂にて(集会後に銀座デモ)

主催：星野文昭さんを取り戻そう！全国再審連絡会議

○ 武田雄飛丸君「暴行」でっち上げ裁判控訴審一判決

12月3日(木) 13時半～ 東京高裁にて ※傍聴券配布のため、13時までに裁判所入口脇に集合してください。

○ 武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判控訴審・第2回

1月20日(水) 14時半～ 東京高裁822号法廷にて